

世界展開力強化事業ブラジル長期留学 第一回報告書

国際バイオビジネス学科 4年 竹中奏絵

1) はじめに

4月15日に日本を出発し、16日からピラシカバでの生活が始まった。本来なら一週間ほど早く着く予定だったが、出発を控えた二週間ほど前にイースターの関係で渡航日が変更になった。それ以外はビザ取得や保険など揃え、無事ブラジルでの生活を始められたことを嬉しく思う。まだわからないことだらけだが一つ一つ乗り越えていきたい。

2) 学習面について

私はサンパウロ大学ピラシカバ校 **Luiz de Queiroz College of Agriculture, University of San Paulo** (以下 **ESALQ**) に通っている。こちらの学期は2月から始まっているため今学期は聴講のみで特別決まった授業は受講していない。また、こちらの大学で留学生向けのポルトガル語の授業があると聞いていたが、現在予算の関係で開講しておらず、オンラインでの授業のみとなっている。これから留学を考えている学生には注意してほしい。そのため私は日本から持ってきた教材を使い、現地の学生と話すことでポルトガル語習得に励んでいる。日本での事前学習では足りないことはわかっていたが生活するとより一層肌で感じる。たった一言伝えただけなのに時間がかかってしまうことや、ゆっくり話してもらったり、紙に書いてもらったりする。話をしている聞き取れても自分の言葉で返せないことが歯がゆい。“まだ着いて一か月”と考えているとあっという間に留学生活が終わってしまいそうなので気を引き締めていきたい。

2) 生活面について

こちらで生活を始めるにあたって外国人登録 (**RNE**) や納税者番号 (**CPF**) 取得を必要とした。オンラインでの記入が必要であり、所定の場所で支払いなど日本での事前説明はあったもののわからないことだらけだった。日本で何か手続きを行うとしてもわからないことや、不備など言葉が通じてわかりにくいことがある。それを言葉が通じないブラジルで行うとなるとスムーズにはいかないのではないかと思った。しかし、想像していたよりもスムーズに手続きは進み、これらの必要な手続きはこの一か月で済ませることが出来た。

私は **Republica Cupido** というシェアハウスで生活している。ここでは平日は家政婦が来て昼夜の食事の用意・掃除等行ってもらえることが月の家賃に含まれている。これまで三年間一人暮らしをしていたため不便を感じることはない。しかし、一か月弱こちらで生活をしてこれから気を付けたいと思うことは食事面である。平日の用意された食事や時々ルー

ムメイトとする外食ではどうしても偏りができ、野菜不足になる。実際こちらにきてもともと持っていた口唇ヘルペスに加え、口角炎になった。生活環境の変化がこれらの原因だと思うが、食事に気を付け予防したい。先日サンパウロに行った際、東洋人街で日本の調味料を買ったためこちらでもできるだけ自炊をしようと思う。

やはり治安が良くないと言われるブラジルでの生活のため、外出する際は朝早すぎないこと、日が沈んでからは友人との外出のみで一人では出歩かないなど気を付けている。この地域は ESALQ 以外にも大学があるため比較的治安はいいほうだと聞くが、どの程度外出できるのか探り探りである。これから家の近辺と大学への道のり以外にも少しずつ活動範囲を広げることが今後の課題である。

3) リオデジャネイロ

私の留学の目的にもあるブラジルの様々な面を見るためリオデジャネイロを訪問した。ブラジルを訪れるのは今回で三回目だがリオデジャネイロへ行くのは初めてであった。やはりビーチが有名な街のため、人や街の雰囲気は都会的なサンパウロとは異なっていた。街自体の地形の起伏が激しかったことが印象的である。正直ここで去年オリンピックが行われたとは思えなかった。

有名な観光地を訪れることが出来たことも良かったが、訪問してみて街の雰囲気を感じられたことがよかった。渡航する前リオデジャネイロが舞台の「City of God」を観ていたため、リオデジャネイロの話題の時に耳にするファベラが街のどんな場所にあるのか興味があった。固まった地域にあると思いきや、意外にも散らばってファベラは存在していた。富裕層が住んでいそうな建物のすぐ近くにもファベラがあることに驚いた。近年ワールドカップやオリンピックがあったことで治安は良くなっているそうだが、今もあの映画のような世界が残っているのかと思うと日本が平和だということを実感する訪問となった。

4) サンパウロ訪問

リオデジャネイロ訪問の後、サンパウロにある東洋人街も訪れた。日本でも売られている食材がある店や本屋、日系の方が営んでいる飲食店があるためブラジルにいながら日本を感じる事が出来る。日本移民資料館を見学したがここに来ると改めてブラジルと日本の関わりを感じる。ブラジル人が日本人に対して友好的なのは移民した方々のブラジルへの功績の高さからである。今も日系人の方々、農大OBの方々が活躍されているからこそ、こうして留学へきて一人ではないと思うことが出来る。私が最初にブラジルへ来たのも国際バイオビジネス学科実地研修を通してであった。この繋がりはとても心強い。これからも農大生にはブラジルに来てほしいと思う。

ESALQ



コルコバードの丘からの景色 リオの街を一望出来る



コルコバードのキリスト像

